

## 1 - 2 1981年4月北海道中央部に発生した二つの地震 Two Shallow Earthquakes on April, 1981 in the Central Part of Hokkaido

北海道大学理学部

森谷 武男

Takeo Moriya  
Faculty of Science, Hokkaido University

### 1) 1981年4月9日20時18分(M2.9)川湯地震

この地震発生後4月21日から9日間臨時観測が行なわれた。震源域は川湯にある活火山アトサヌプリ周辺にあり(第1図), 深さは1~5kmと推定された。地震の発生数は1日平均約10個であった。アトサヌプリにおいては昭和54年9月に川崎地質株式会社が, また昭和55年9月には札幌管区気象台<sup>1)</sup>によってそれぞれ地震観測が行なわれてきた。これらの資料から地震活動を比較するとやや活発化する傾向がある。

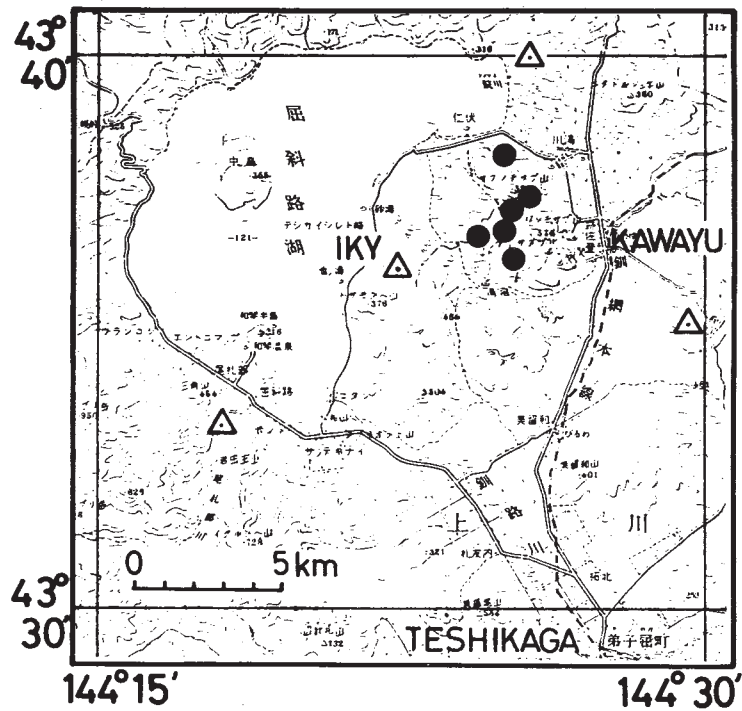
### 2) 1981年4月19日22時19分(M4.5)幌加内地震

震源域に最も近い観測点である留萌市樽真布では多くの余震が観測された。余震活動は約2時間で終わったがその後やや活発な状態が続いた(第2図, 第3図)。メカニズム解は東西圧縮のStrike-Slipを示しており過去に得られた北海道中央部および北部の浅発地震のメカニズム解と似ている(第4図)。余震の配列(第5図)から北西~南東の節面が断層面と考えられる。幌加町付近にはいくつかの雁行状配列をした活断層の存在が推定されている<sup>2)</sup>。この地震から推定される断層もこれらと調和的である。

### 参 考 文 献

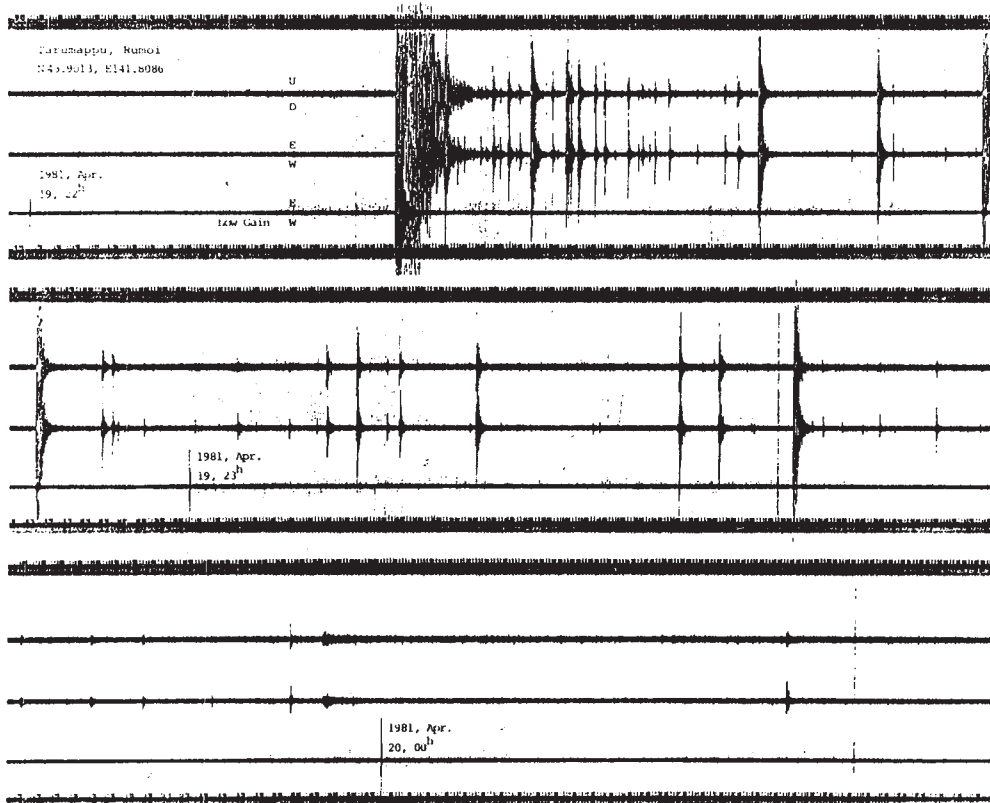
1) 札幌管区気象台: アトサヌプリ北海道地域火山機動観測実施報告第2号

2) 活断層研究会: 日本の活断層-分布図と資料



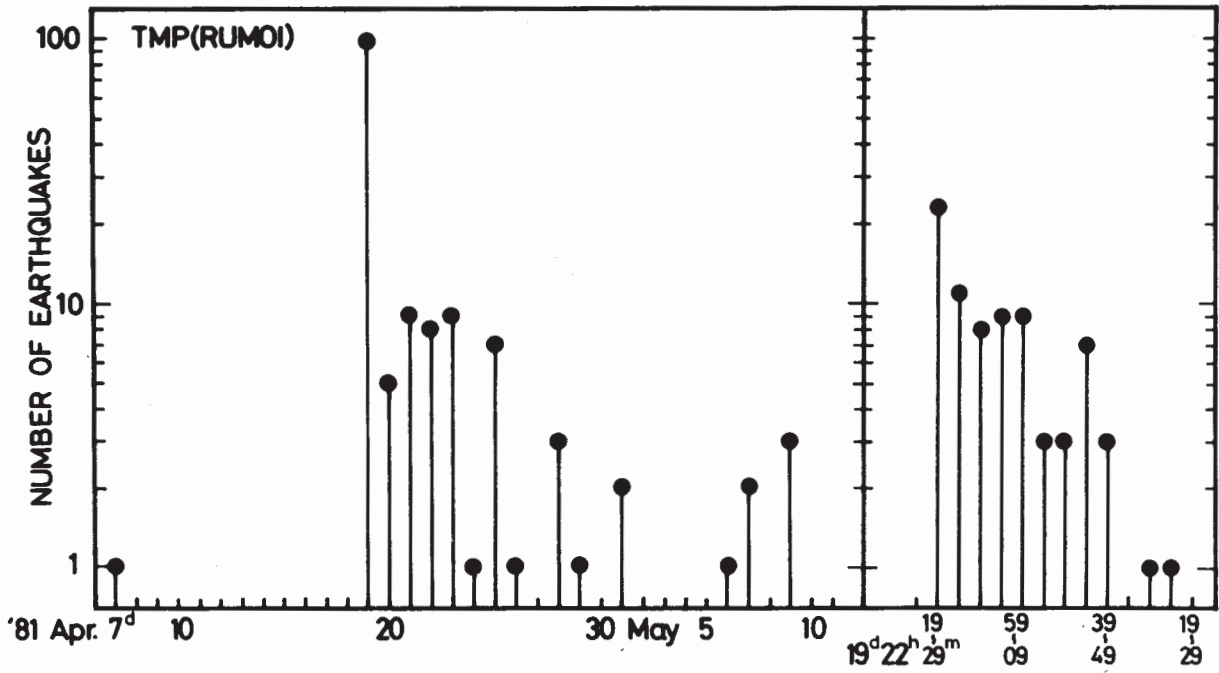
第1図 川湯における臨時観測点（三角印）および震央（黒丸印）。

Fig. 1 Distribution of temporal stations (triangles) and epicenters of Kawayu Earthquakes (closed circles).



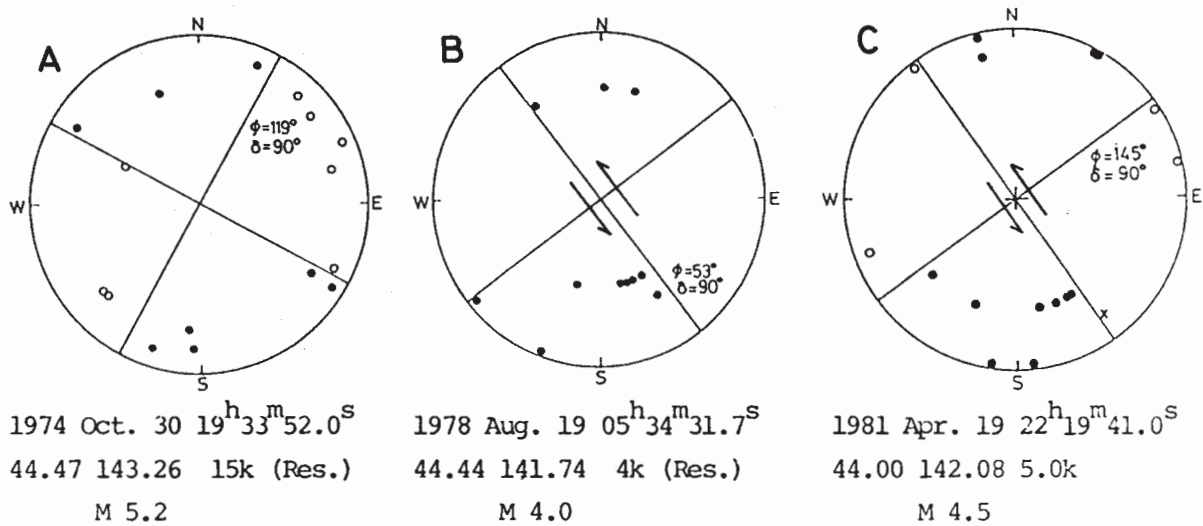
第2図 留萌市樽真布における幌加内地震のおそ送り再生記録。

Fig. 2 Seismograms of mainshock and aftershock sequence of Horokanai Earthquake on a slow speed chart at Tarumappu, Rumoi.



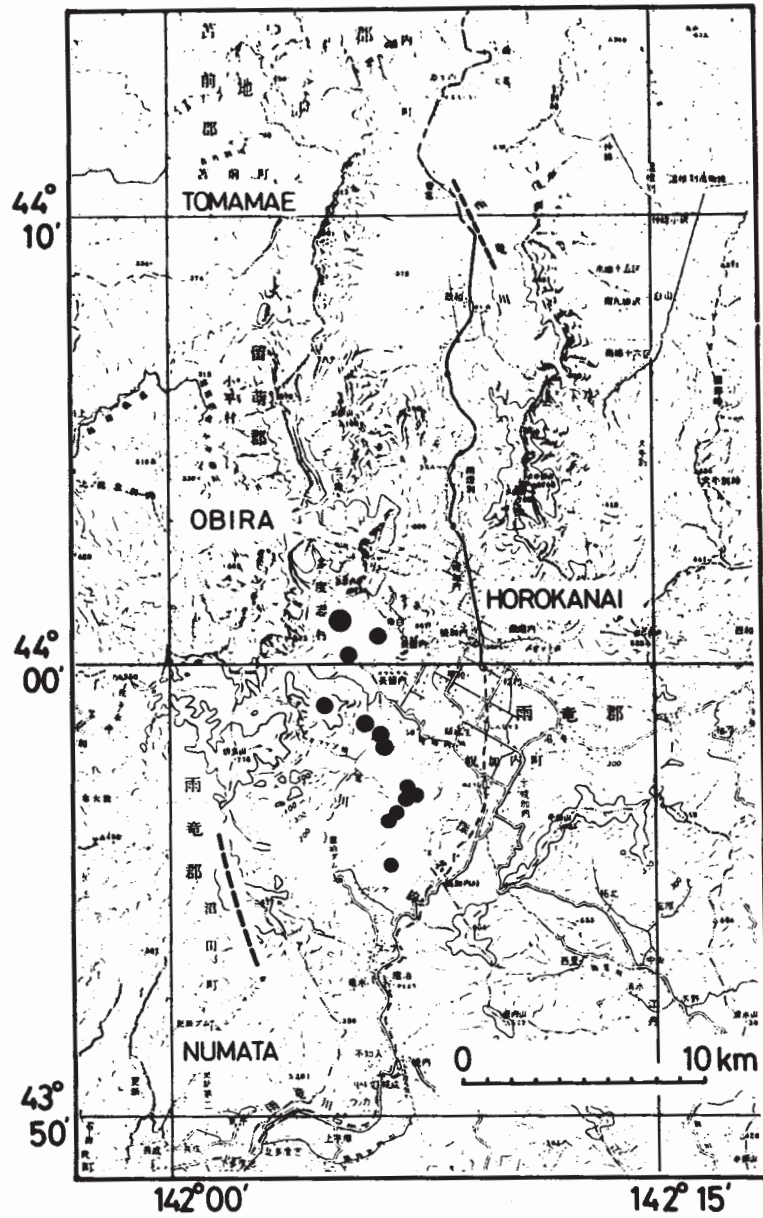
第3図 樽真布における幌加内地震の余震回数。

Fig. 3 Frequency distribution of aftershocks of Horokanai Earthquake at Tarumappu, Rumoi.



第4図 北海道中央部および北部に発生した紋別地震(A), 築別地震(B)および幌加内地震(C)のメカニズム解。

Fig. 4 Mechanism solutions of Monbetsu Earthquake (A), Chikubetsu Earthquake (B) and Horokanai Earthquake (C).



第5図 幌加内地震の本震・余震の震央分布（黒丸印）および活断層<sup>2)</sup>（点線）。

Fig. 5 Epicenters of mainshock and aftershocks of Horokanai Earthquake (closed circles) and active faults (broken lines).